

平成 20 年 4 月 28 日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470203195
法人名	創建工業株式会社
事業所名	グループホーム光南あおぞら
所在地 (電話番号)	広島市中区光南二丁目3番46号 (電話) 082 - 249 - 6602

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6番29号		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】[平成19年12月事業所記入]

(1) 組織要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30 人	常勤 6人、非常勤 24人、常勤換算	14.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改造
建物構造	鉄骨造り	
	4 階建ての	3 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,450円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金	90,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要[4月22日現在]

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	10 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 78.1 歳	最低 63 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉島病院	三宅歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの運営コンセプトは、{ローコスト・ミドルパフォーマンス}である。運営母体である総合建設会社が経営していた、遊休のカラオケルームを改修し、国民年金受給者などで認知症高齢者を対象とし、負担可能な低廉な入居料の設定をし、実現した施設である。人は、なぜ認知症になるのか？それは、淋しいんだ、人とのふれあいの欠如による要因がおおきくは、…ふれあいの機会を多くすることで、認知症の進行を和らげることを、ホームの立ち上げ時、小人数の入居者とスタッフとのふれあいを通じて、生きた教材として学んだ。あおぞら…命名の由来は、当たり前前の{あ}。穏やかに、{お}。存分の{ぞ}。磊落の{ら}とそれぞれり頭文字を取られたものである。スタッフは、穏かであって欲しく、また、入居者の要望、思いの全てを吸収し、自分も思う存分に行動しようと、ホーム長の、[人情味豊かな…長屋の生活を再現したい]の言葉が印象にのこる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では特に改善課題はなかつたが、職員一人ひとりが、ホーム長の介護の本質を掴んだ、認知症ケアにたいするポリシーを的確に認識し、常に理念にそぐわないケアはないかを心掛けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 入居者の状態・希望を十分理解せず、職員の思い込みで対応せず、本人の言葉から過去を知るテクニックを身に付ける努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、定期的開催されている。ホームからの報告、地域からの呼びかけ、包括支援センターからのアドバイス等充実した取り組みがされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 個人情報の取り扱い方針・プライバシーポリシーを確立し、利用者の思いに対して、また、家族に対する支援について、常に100点を目指しながら取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事のトンド祭りや秋祭りに出来るだけ利用者と職員が参加をしたり、また、神輿等が立ち寄って一緒に楽しみながら交流の輪を広げている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あたりまえ おだやか ぞんぶん らいらく」を理念として、家族的な生活の場作りに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの都度、理念の具体化に向けて利用者本位の支援を話しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の清掃や秋祭り及びトンド祭りに利用者と職員が共に参加をしたり、また、児童館訪問・公民館利用・納涼祭えの案内を受けるなどしながら日常的な交流に心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員と共に取り組み課題などについては、全職員で話しあって日々のケアや課題解決に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、地域からの要望や提言及び地域包括支援センターからのアドバイスを日々の支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の支援に対する相談や、新規の入居希望者の受け入れ等については、情報交換等を通じて連携を密にしながら、サービスの質の向上に資している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入院された入居者については、時間の許す限り訪問し、病院職員との情報交換をきめ細かく行いながら、また、家族ともの確な連携を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書・ご意見箱・アンケート等を活用しながら、苦情処理等にも速やかに適性に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは、基準以上の人員配置をしており、やむを得ず退職希望者が出た場合には、後任者と引継ぎが十分に出来るように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年齢層やキャリアの差が以前より広がっており、トレーニングの視点も以前より多岐になつているが、実践を糧に教育している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員交換研修や共同行事等を再開して、サービスの質の向上を図ることとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員には、本人の今の言葉から、これまでのことを知る技術が必要であることを認識させる教育をすると共に、家族等との連携を密にしながら馴染めるように支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の人と言うより普通の人として接しながら、隣の人のように、家族のように、その人のジャンルをそれぞれ見出して支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の思い込みで、対応するのではなく、本人の希望・その状態を十分理解し、会話や行動を束縛することがないように快適な生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の部屋番号と同一の日に、業務日誌(日報)をケアノートに転記し、また、家族の意見も聞きながら介護計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送りの時間に、ケアノートに基づき必要に応じては話し合いの上、プランの見直しをする。また、プランの有効期間満了直前には必ず見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者の体調、不穏がないときは、飲食 店・喫茶店に出掛けたりし、また、タクシ ーの運転をなさているご家族の協力を得て、 同伴による通院・送迎を定期的に設けてい る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人・ご家族の要望により、入居前の主治 医に引き続き受診される場合は、付き添い 支援をしている。また、協力医療機関とも 気軽に相談をしたり、往診を受ける事も できる体制がとられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、 できるだけ早い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、 全員で方針を共有している	かかりつけ医から、ご家族への伝達事項・ 電話相談の他、面接等で協議した内容に より、その都度その方針の共有に努めて いる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い方針・プライバシー ポリシーを確立し、職員もそれを熟知し、 人の尊厳を視点にやさしい言葉かけ、 対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援 している	ご本人のペースに合わせ、{否定する事} ・[強制する事]をしないで、常に寄り 添い柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所での食事づくりなどは、利用者本人の能力に応じた参加方法を話しあって役割を分担している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	足浴の要望に応じ、随時実施している。また、夏季のシャワー実施、長湯への対応にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の、やりたいこと、出来る事を見極め、個別に、メニューを作成している。必要に応じて、ケア計画と共に見直し、対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出・買い物・ホーム周辺の散歩を日課としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは、鉄骨造りの3・4階にあり、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応も検討されているが、一般住宅地と異なり各種ビル街のため協力が得がたい環境である。しかし、定期的に近隣清掃をしながら、地域の方にはホームを理解して貰うよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の、嗜好に対応し、食事・水分は、把握されており決め細やかな支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、家族的で明るく爽やかな雰囲気醸しだされており、季節感を感じながら居心地良く過ごせるよう、気配りがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向・ご家族のご理解も得て、これまで家庭で使い慣れたもの・記念の品・写真等を持ち込んで貰い、入居以前と変わりなく居心地良く過ごしてもらっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 光南あおぞら

評価年月日 19 年 12 月 1 日

記入年月日 19 年 12 月 1 日

記入者 職 管理者 氏名 初山鈴子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	あたりまえ おだやか ぞんぶん らいらく と4つの理念を掲げている。		各ユニットの年間目標を結びつけて考えていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。			毎月のミーティングで、介護内容や業務に反映できているか確認している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。			入居前の重要事項説明時に必ず口頭で伝えている。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の方から声をかけていただけるように 近隣清掃に取り組んでいる。		今後も継続して行う。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	秋祭りなどに参加し、神輿などは立ち寄って くださっている。		児童館や公民館などの地域資源をさらに活用したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	以前は散歩先などで出会った人が訪れていたが、その機会は大きく減少した。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。			他グループホームとの比較なども行う必要がある。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。			在宅で生活されている認知症高齢者の方の相談にも応じていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現入居者の対応に係る相談や、新規利用希望者の状況に対して受け入れ上の要点などを相談する機会がある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			特定の入居者へ制度の利用にメリットがあるか、区役所の窓口で相談したことがある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングにおいて定期的に話題に挙げ、指導している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>特に入居後の体調不良などの緊急時対応については念を入れて説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>当人に直接言えない不満を間接的に伝えられる訴えを共有し、主訴を見極めることに注意して対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>			<p>ご本人からの連絡をさらに支援すると共に、頻度を増す必要があると考えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>			<p>入居時の説明は従来より行っているが、不満、苦情を承ったときに改めて説明しながら手順を踏み、対応する必要がある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一度のミーティングでの意見を重視しているが、意見などについては、普段から聞き取ったうえで会議に臨んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>出勤者の中に、担当者を設けている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			職員退職前に後任が引き継げが出来なかったことがあり、より速やかに募集する体制が必要である。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。			職員の年齢層やキャリアの差が以前より広がっており、トレーニングの要点も以前より多くなり重要性が増している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。			職員交換研修や共同行事など、再開して活用したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。			以前開催していた親睦会の再開が望まれる。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	業務過多が課題となっている。		課題を業務効率化に絞り、ミーティングの議題としている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前の面会は回数を重ねるよう配慮し、ホーム送迎のうえ、ご本人見学の機会を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>いままで対応してきた事例を説明しながら、ご家族の方が予想しうる状況に対する不安を解消できるよう説明している。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>他サービスの活用も含め、情報提供に努めている。ご相談者の同意が得られれば、他施設への紹介を行っている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>過去の生活暦をサービスに生かす観点で細やかに聞き取っている。</p>		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常より職員からの謝意の言葉がけを行っている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>			<p>不穏興奮などの気分の浮き沈みや、幻視幻聴などのある入居者のご家族への状況報告には、今後の展望なども言い添えて支持、支援に勤める。</p>
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入居期間が延びることで過去の生活暦がより詳細に聴けることがあり、継続的に情報を交換している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>近隣訪問を年に数回だが実施している。 ご本人の希望する外出先など所定の様式で記録している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者同士のトラブルが時折発生するが、非難された方への十分なケアと同時に偶然起きたトラブルなのか、潜在的な原因があるかを見極め、対処している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>入院先への見舞いに洗濯物や物品購入まで柔軟に対応している。</p>		<p>過去に数例、葬祭を執り行ったことがある。 (身寄りがない、等の事情により)</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>			<p>訴えが多く、不穏興奮に繋がりがやすい入居者がおられ、他の方とのバランスに苦慮しながら、要望に応じている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご本人との会話の中に現れる単語について、ご家族に確認することで理解を深めるよう勤めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>担当者を設け、毎日朝夕の申し送りの場でその日あった事、ご様子を総括している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	十日に一度の朝のモニタリングの内容や申し送りの内容を意見を伺うときの貴重な材料としている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎朝の申し送りの場で、一日お一人ずつプランの進捗について確認し、モニタリングの一助としており、随時の見直しも行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録 日報 業務日誌 通院記録 ケア検討記録 (モニタリング)を組み合わせて活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			タクシー運転手をなさっているご家族も職員と共に通院に同伴と送迎を行う、あるいは行き先を飲食店などとするなど定期的に行っている。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			近隣福祉センターで行われた健康教室への参加を試行したことがある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			今後とも利用先変更などへの支援を継続して行う。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			初期の認知症で、在宅で生活されている方の入居ご相談など、継続的に関わることが求められる辞令への協力を惜しまない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご本人の要望ある場合は、入居前の主治医を引き続き受診し、付き添いなどでも支援している。入居時に意向を確認し、見直しも随時行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	以前入院歴のある方は通院や電話連絡で主治医の助言を受けている。入院先よりも近く、受診、助言をいただける医療機関が確保できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	係りつけ医受診時などに質疑のやりとりし、理解に勤めている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院（特に直後）は面会を頻繁に行い、不安の解消と入院先との情報交換に努めている。ご本人のコミュニケーションの傾向など、入院先スタッフに十分に伝達する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>係りつけ医からご家族への伝達事項の提案などあり、電話相談、時折面談などで協議した内容を教わって方針を立てている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>			<p>ケアの限界の説明は詳細に行うものの、ご家族などの不安にも耳を傾け、今後の方針を立てる必要がある。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>一時入院時と同じように、(特に直後)は面会を頻繁に行い、不安の解消と入院先との情報交換に努めている。</p> <p>ご本人のコミュニケーションの傾向など、入院先スタッフに十分に伝達する。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>			<p>情報を開示する場合の説明と、承諾に関しては入居時必ず実施しているが、開示を要した場合の状況などの報告についても行っていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>			<p>以前は 10 時お茶のとき好きなものを選んで飲んでいただいていたが、好みが変わらなくなると共に行われなくなった。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。			遠出の散歩など、少数の方のニーズへの対応が課題である。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。			待ち時間などの問題から、近隣利美容院の利用頻度は減少中。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	能力に応じた参加方法を話し合い、プランにも反映させている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食思不振の方のための個別食の買出しなど柔軟に対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	紙おむつの併用はしているものの、トイレでの排泄を前提に対処している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。			足浴の要望が多く随時実施しているが、夏季のシャワー追加実施や長湯への対応に留まっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>身体的に疲労感があるものの、日中部屋で横になることを好まれない方に添い寝などの対処している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>個別メニューを立てている。 ケア計画と共に見直して対応している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>			<p>全員ではないが小遣い帳や買いたいものリストを使われており、買い物付き添いや金銭管理を支援している。</p>
61	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>日課としている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。</p>	<p>普段の会話のなかでも要望があった折は記録できるように所定の様式を設けている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>時節挨拶などの手紙を書くことをレクに取り入れている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>半日、滞在なさるご家族の方の食事も準備して対応している。(お誕生日、ご入居日などにも)</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>			<p>人権についての学びを深めたい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>			<p>独りになりたいお気持ちの折、そっと寄り添うことをさらに求めたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>			<p>居室での体調不良時などの連絡方法について検討中である。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>要望によりお貸しした刃物や針など、対応した職員が責任を持って回収するよう心がけ、管理が及んでいなかった場合は注意している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>			<p>以前、2度ほど広島市の消防局より講師として来ていただき救急究明の指導を受けたが、今年度はぜひ改めて実施したい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	具体的な想定を挙げて手順をマニュアル化し、周知している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			まず、気軽に訪れていただけるための活動が必要と考え、近隣清掃を定期実施したが、さらなる取り組みが必要と考える。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。			入居期間の延びと共に、説明を聞かれたのちのご家族のお気持ちへのフォローの重要性が増している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	速やかに主治医に連絡し、夜間や休日の対応についても事前に指示をいただけるよう相談する体制にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	担当者と管理者、受診付き添い職員が情報を交換しながら協議して対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	ほぼ全員の利用者の対応が確立できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者日課としている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	メニューや形態など、情報や階部からの指導を受けながら対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを掲示、時節に合わせミーティングとその議事録、毎日の申し送り時とその記録書類にて伝達している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルを掲示、時節に合わせミーティングとその議事録、毎日の申し送り時とその記録書類にて伝達している。 刺身をメニューから外す時期を設定している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にソファや椅子を多く配置している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	扉の開閉音が耳に付かないよう対応している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	配席に配慮している。レク内容などに応じ配置も随時換え、対応している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。			誕生日のプレゼントなどにも好まれる色柄の物品を準備している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暖房を強く聞かせることを好み。器具も操作される利用者の対応に苦慮しているが、その方が率先して換気などの作業を行われるので見守っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。			今後の予測をすると、部分的に改修が必要な箇所がある(3F男性トイレ)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入り口扉の装飾をご本人要望に応じて行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前に鉢やプランターを並べて活動している。		